ロンドン大学衛生学・熱帯医学校より Bernard Rachet先生を迎えて

伊藤 ゆり
大阪府立成人病センター　がん予防情報センター　研究員

大阪府立成人病センター
がん予防情報センター

日本学術振興会の国際交流事業における外国人招へい研究者（長期）という助成金をいただき、平成25年4月1日から6月22日の間、ロンドン大学衛生学・熱帯医学校よりBernard Rachet先生を大阪府立成人病センターに招へいし、共同研究を行いました。Rachet先生はがん患者の生存率の国際共同調査CONCORD studyを主催するMichel Coleman教授と一緒にお仕事されています。滞在中、Rachet先生の研究課題である「日本と英国におけるがん患者の生存率格差の決定要因について」、約3ヶ月弱、大阪府がん登録資料、大阪府立成人病センター院内がん登録資料を用いて分析し、英国における状況との比較を行いました。英国と同様に、国民皆保険制度をとっている我が国においても、ほとんどの部位のがんにおいて、がん患者の生存率に社会経済因子による格差が生じていることがわかりました。英国との相違点は英国では比較的短期の予後（1年生存率）において格差が生じており、長期予後（5年生存率）ではその差が縮まっていたのに対し、大阪府の結果では、長期予後において、格差が大きくなっていることがわかりました。また、格差の生じる要因を探るために、診断時進行度や治療内容などの違いについても検討しています。

▲Rachet先生のセミナーのようす

招へい期間中には部内外含め、計7回のセミナーを行いました。国立がん研究センターでは英国・大阪での状況についての研究報告を行い、東京大学、大阪大学ではその内容に加え、日本版社会経済指標（deprivation index）を開発された立命館大学中谷友樹先生を迎え、共同セミナーを行いました。さらに、久留米大学においてはがん登録資料を用いた最新の生存率推定方法（Pohar-Permeのnet survival）に焦点をあてた専門家向けのセミナーを開催しました。大阪府立成人病センターにおいては部内のミーティング、抄読会、最終報告会を行い、積極的に学術的な貢献を行っていただきました。各セミナーにおいて、多数のご参加をいただき、関心を持たれた研究者・学生の皆さんと有意義なDiscussionを行うことができ、共同研究の発展にも役立てることができました。また、広島の放射線影響研究所を訪問し、広島県がん登録も見学させていただきました。

▲Rachet先生とがん予防情報センター疫学予防課のスタッフ

Rachet先生は、お料理がたいへん得意で、毎日野菜たっぷりの手作り弁当を持参され、ほぼ毎週月曜にはケーキを焼いてきてくれました。部内のスタッフともたいへん仲良くなり、毎日、英語・フランス語・日本語を交えてコミュニケーションをとっていました。今回で三度目の来日となりましたが、また、大阪に招へいできるよう、共同研究の成果を出して行きたいと思います。

▲Rachet先生手づくりケーキ

From.Dr Bernard Rachet

One already know how insightful international research studies can be to reveal differences in health outcomes. But international collaboration is also very valuable for understanding mechanisms underlying for example socio-economic inequalities in cancer survival. Such results are very important for health policy-makers especially when based on routine population-based data and all cancer registry staff members should be thanked for all their efforts to maintain high-quality data. International studies make even more crucial the need for such data, which should be not only of high quality, but comparable, detailed and up-to-date, to make the most of them. Both at national and international levels, additional information such as socio-economic, healthcare system or clinical factors, makes the population-based cancer registry data richer. The access to such data has become harder in many countries and considering their great importance for meaningful inferences in public health, it should be the responsibilities of health authorities to make this access easier.

I am more than thankful to all the Japanese collaborators and colleagues for their efforts to make my visit successful as well as pleasant.

Bernard Rachet先生よりJACR会員の皆様へのメッセージ

洞察に満ちた国際共同研究により、健康に関する違いを明らかにすることが可能であることはご存じの通りですが、我々が取り組んでいるようながん患者の生存率における社会経済格差の国際共同研究は格差の生じるメカニズムを理解する上で、非常に有意義です。このような結果は健康政策の決定者にとって重要であり、地域がん登録資料に基づき分析されているため、質の高いデータを提供する努力を払ってきた全てのがん登録従事者は感謝されるべきでしょう。国際共同研究においては、データの質が高いだけでなく、比較可能かつ詳細であり、最新のデータ提供が可能であることが重要です。国内・国際研究を問わず、社会経済因子や保健医療システム、臨床的な因子のような追加的な外部指標をリンケージすることで、地域がん登録資料をより豊かなデータにします。このようなデータへのアクセスやリンケージは多くの国でまだ困難ではありますが、それにより得られる公衆衛生的な価値を考慮し、健康政策に関わる者の責任としてアクセス可能な状態にするべきでしょう。

最後に、私の訪問に際し、ご尽力を下さいました日本の共同研究者の皆様、成人病センターがん予防情報センターの皆様に感謝申し上げます。

FALCO SD

私たちファルコバイオシステムズは、
生命と健康に関わる社会活動をサポートしています。

私たちは、臨床検査事業を中心に幅広い事業を展開しています。
そこに一貫して流れるのは人々の生命と健康を支えたいという想い。
そんな想いが、私たちの事業とサービスを一歩一歩前進させてきました。
人々の健康を支え、より安全で豊かな未来をつくるために——

人に、未来により近く。

TÜV MANAGEMENT SERVICE ISO 9001
総合研究所　ISO9001認証取得

ファルコSDホールディングスグループ　株式会社 ファルコバイオシステムズ
本社／〒604-0911 京都市中京区河原町通二条上る清水町 346 番地　TEL (075)257-8500　FAX (075)257-8511
http://www.falco.co.jp